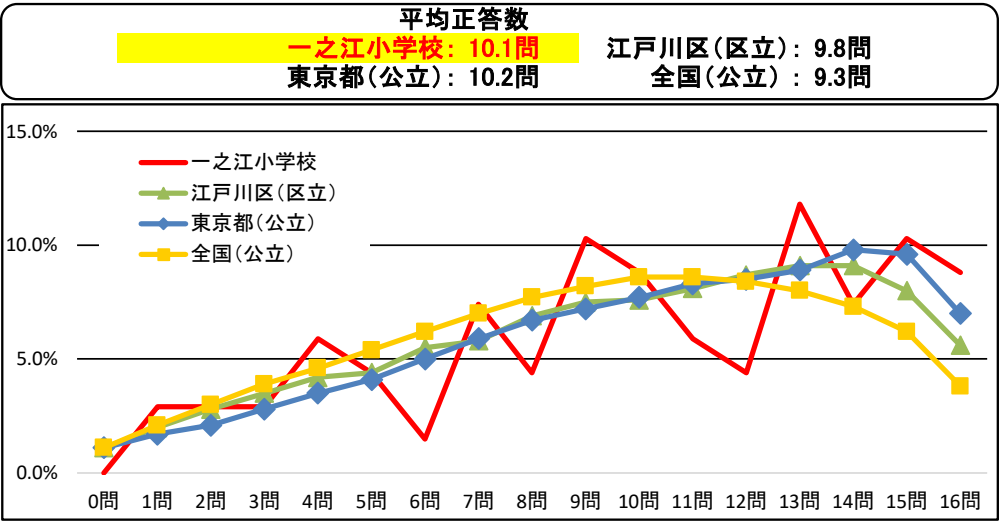


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【算数】江戸川区立一之江小学校

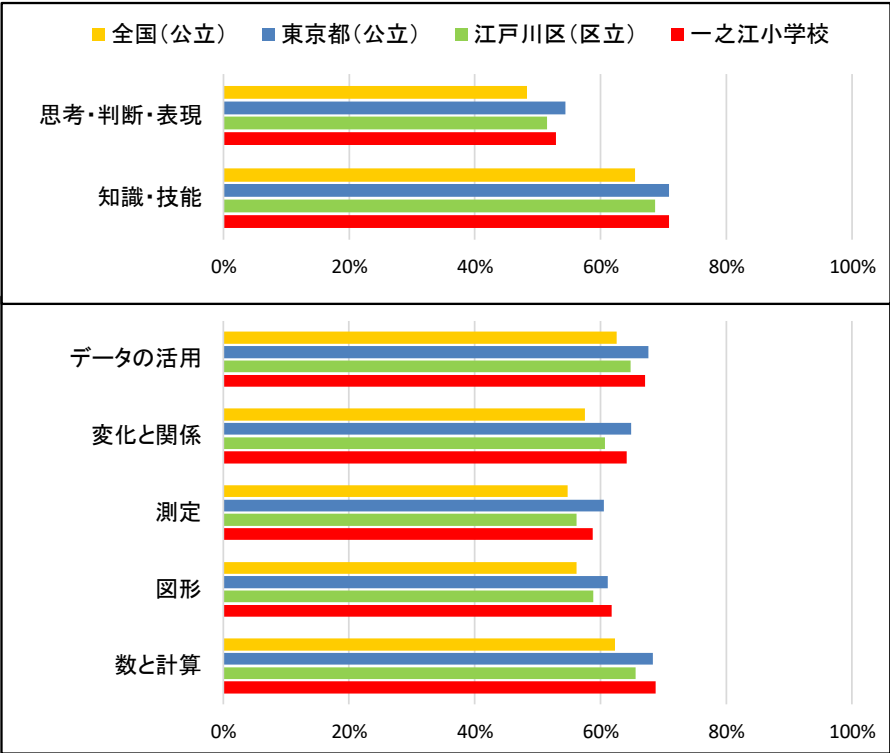
正答数分布



【平均正答率の差】

一之江小学校	63%
江戸川区(区立)	61%
東京都(公立)	64%
全国(公立)	58%
都との差(ポイント)	-1.0

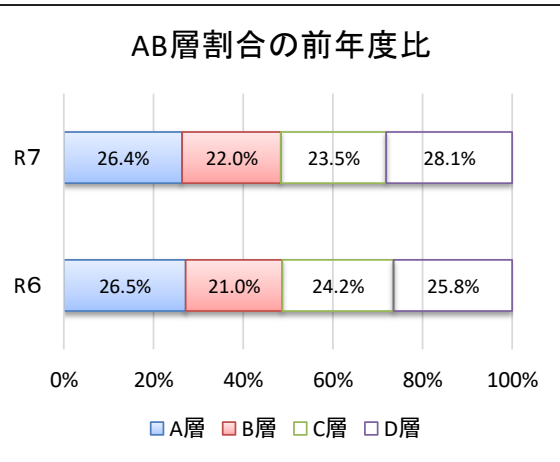
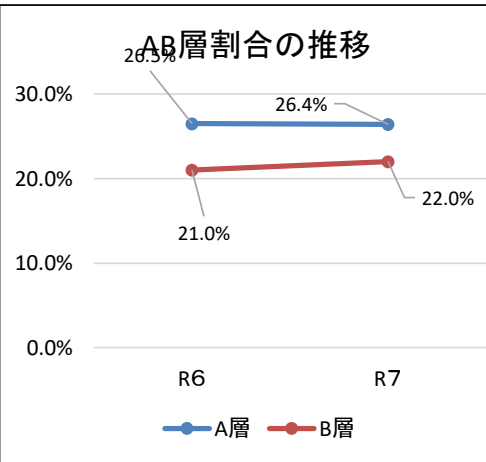
「領域別」の結果



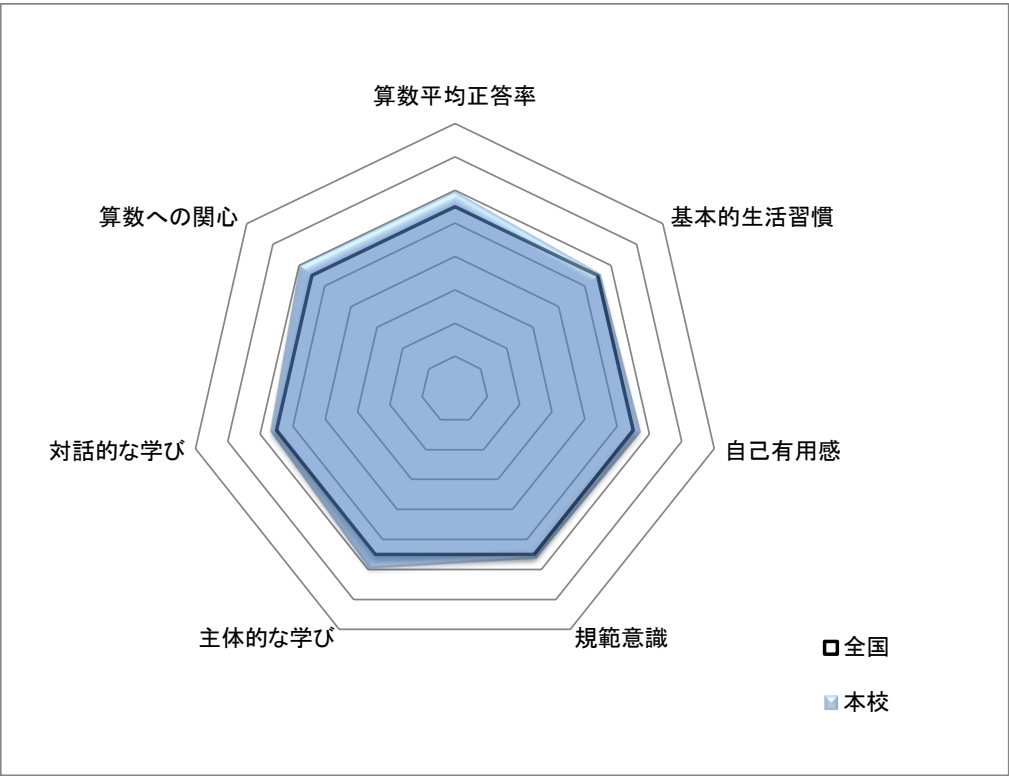
四分位における割合（都全体の四分位による）

算数	上位 ← 下位			
	A層 14～16問	B層 11～13問	C層 7～10問	D層 0～6問
一之江小学校	26.4%	22.0%	23.5%	28.1%
江戸川区(区立)	22.7%	25.9%	27.9%	23.5%
東京都(公立)	26.4%	25.7%	27.6%	20.3%
全国(公立)	17.3%	25.0%	31.4%	26.3%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都（公立）のデータを基に定めている。



各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

- ・本校の算数の平均正答数10.1で、東京都と同レベル(10.2)、江戸川区(9.8)、全国(9.3)を上回っている。
- ・質問紙調査で全国よりも肯定的な評価が高かったのは「主体的な学び」(1.09 全国を1とした場合の数値)、「算数への関心」(1.09)だった。特に「算数の勉強は好きですか」という設問の肯定的評価が高かった。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・基礎学力定着に向けた朝学習や放課後学習や学力調査結果などを、学校全体や学級の保護者会、授業公開、学校のホームページ、学校だよりなどを通して発信し、理解と協力を得ていく。
- ・個人面談で一人一人の学習の状況や学校での取組などを説明していく。

《現状把握》

- AB層の割合と取組内容について
- ・本校のA層、B層を合わせた割合は48.4%で、東京都(52.1%)よりも低く、江戸川区(48.6%)と同程度、全国(42.3%)より高い状況であった。なお、A層のみで見ると本校は26.4%で、東京都(26.4%)と同じ、江戸川区(22.7%)、全国(17.3%)より高い状況だった。
- ・本校ではD層の割合(28.1%)が、東京都(20.3%)、江戸川区(23.5%)、全国(26.3%)よりも高く、授業の工夫・改善や放課後学習などの取組の強化を図っていく。

《学校の取組》

- ・教員の指導力向上
- ・校内研究を通して、学校全体として授業の改善・充実を進めていく。
- ・相互に授業を見合う機会を十分に設けるとともに、授業の計画や授業記録を学校全体で共有するなどして指導力の向上を図っていく。
- ・教科担任制や学年内での授業の交換を積極的に進めていく。また、3年生以上では、より効果的な算数の習熟度別指導を行っていく。
- ・教育委員会から定期的に講師を招くなどして若手教員を中心として指導力の向上を進めていく。
- ・基礎学力の保障
- ・国や区の学力調査の結果を踏まえて、基礎学力向上に向けた取組の検証、改善を進めていく。
- ・電子ドリルの積極的な活用を進めるなどして、多くの問題に取り組み学習の定着を図ることができるようにしていく。
- ・理解に時間を必要とする児童には、放課後補習を活用し、確かな力が身に付けられるようにしていく。

・学習習慣の確立

- ・区の「算数授業スタンダード」を活用したり、学校としての授業の進め方の基本を踏まえたり、「一之江学び方スタンダード」を児童、教職員でよく共通理解し、授業の中で取り組み、学び方が定着させていく。
- ・学年の発達段階に応じて、自分の学習の内容や方法を選んだり決めたりして学習計画を立てて取り組むような機会を設け、意欲的に学んでいくことができるようにする。

・AB層の育成

- ・授業の中で発展的な学習に取り組む場面を意図的、積極的に設けていく。
- ・タブレット端末を活用して授業の質、密度を高めるとともに、より主体的に取り組む活動を増やしていく。
- ・自分の考えを言葉でわかりやすく説明したり、友だちと考えを出し合って深めたりする場を積極的に設けていく。